



図書館員が選ぶ この一冊

18

『^{てん}点^こ子ちゃんとアントン』岩波書店 エーリヒ・ケストナー／著 高橋健二／訳

点子ちゃんは元気な女の子。両親はお金持ちだが、仕事や趣味に忙しくかまってくれない。友達の少年アントンは、病床の母と二人暮らし。学校に通いながら夜は生活のために橋の上で働いている。ある夜、橋の上には点子ちゃんと家庭教師がぼろを着て物乞いをする姿があった。さて、その理由とは…。



正義感が強く、優しく、勇気のある二人が、お互いを思いやりながら問題や事件を解決していく。ドイツの作家ケストナーが1931年に書いた本作はユーモラスを交えながら「人生において大切なこととは何か」を現代の子どもたちにも伝えてくれる。